

令和3年度学校自己評価システムシート（県立上尾鷹の台高等学校）

目指す学校像	「志、高く。思い、深く。夢、羽ばたく」学校
--------	-----------------------

重点目標	1 進学・就職ともに質の高い進路を実現できる生徒を育む。 2 高い「志」を持ち、多くの事に積極的に挑戦するたくましい生徒を育む。 3 安心安全、清潔な学習環境の中で、温かくも規律ある学校文化を醸成する。 4 地域との絆を深化させ、さらに信頼され愛される学校づくりに努める。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	10名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価（1月31日現在）		
年度目標					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた学習環境が整ってきたが、コロナ感染拡大対策を含めた、オンライン学習やICT機器の利用の重要性が増している。 進路指導体制は充実してきたが、入学当初の進路希望を実現させるための粘り強い指導が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭における学習保障をするための環境整備 主体的に学ぶ生徒を育成するための授業の研究開発促進 	①ICT機器活用促進（BYOD活用を含む）のための教職員の資質向上 ②基礎学力診断テストや自主学習教材の活用とICT機器による対話的授業の実践	①教職員のICT活用スキルの向上と授業等での実践機会の増加 ②生徒の授業理解度・満足度・学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> 目標をほぼ達成できた。 ①教職員BYOD活用研修会(5月)、ICT活用研修会(9月)を開催。9月の分散登校時、開講281講座中259講座で授業動画を配信。 ②学校評価アンケート(生徒) 授業への意欲的参加 87.1%(+1.4) 学力向上の実感 65.5%(+0.6) 	A	①職員のICT活用スキルは着実に向上している。次年度はコロナ対策以外にもオンライン授業等の活用を広げたい。 ②生徒の学力向上、進路希望の実現に向け、授業改善・学力向上により一層努めたい。
		<ul style="list-style-type: none"> より計画的・継続的なキャリア教育の実施 生徒の自己理解と進路意識の向上 	①キャリアパスポート・年次の進路行事・個人面談の有効活用 ②資格取得試験の充実、自己診断テスト（QU・進路適性診断等）の活用	①科目選択の適切性・進路実現への取組・進路達成度の向上 ②資格取得試験等受験者の増加	<ul style="list-style-type: none"> 目標をほぼ達成できた。 ①進路達成状況は90.1% (12/13集計) 学校評価アンケート(生徒) 進路・適性を考えた科目選択 88.9%(+9.9) ②ビジネス文書実務検定受験者 348名 英語検定 50名、漢字検定 34名 	A	①キャリア教育と科目選択のより一層の連携を図る。 ②資格試験を進路選択・検討の好機ととらえ、積極的参加を呼び掛ける。
2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自ら考え、行動するための教育活動の機会を確保し、安全に配慮しながら実施するため工夫が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や特別活動を通じた生徒の自主性の育成 生徒の主体的活動を支援する行事の充実 	①安全かつ保護者・生徒の心情に配慮をした学校行事・生徒会活動及び部活動の実施 ②「ようよう夢プラン特別講座」及び体験的活動実施にむけた工夫	①学校行事及び部活動に意欲的・主体的に取り組む生徒の増加 ②「ようよう夢プラン特別講座」及び体験活動への参加者の増加	<ul style="list-style-type: none"> 目標を概ね達成できた。 ①学校評価アンケート(生徒) 学校行事への積極的な取組 89.3% 部活動への主体的参加 88.0%(+0.7) ②特別講座「ビジネスマナー講座」「絵本から広がる児童英語の世界」を開講。生徒参加者67名 	B	①コロナ下における学校行事、部活動のよりよい在り方について研究を進めたい。 ②生徒の興味・関心・意欲をより喚起する「特別講座」を立案・実施していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 教育相談及び特別支援教育の充実 交通安全指導のより一層の充実 	①SC・SSWおよび特支巡回支援員の活用、教職員研修の実施 ②登下校指導の徹底と地域・行政機関との連絡・連携	①不登校の解消と学校生活の満足度上昇 ②登下校時の事故の減少及び生徒の交通安全への意識向上	<ul style="list-style-type: none"> 目標を概ね達成できた。 ①ICTによる不登校生徒への学習支援 SCへの面談要請18件、SSW 2件 学校評価アンケート(生徒) 学校生活への満足 72.5%(+5.3) ②通学路安全指導(朝・夕)、上尾警察署との連携による非行防止教室の実施 	B	①教職員の生徒理解スキル向上、カウンセリングマインド養成をより一層進めたい。 ②通学路の安全確保について、継続的に行政機関との連絡・連携を続けていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた高校生活を送れる生徒が多くなったが、悩みや困難を抱える生徒への一層の支援、通学路の更なる安全確保が求められる。 教職員の業務多忙の中、より一層の「教員の働き方改革」が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の精選及び会議等の時間の削減 学校業務のデジタル化・効率化の推進 	①分掌・年次における業務の精選 ②学校と保護者等の連絡手段のデジタル化の進捗	①効率的な学校運営が行われているか ②教職員の在校等時間短縮に繋がったか	<ul style="list-style-type: none"> 目標をほぼ達成できた。 ①働き方改革委員会を設置し、恒常的に業務の精選を検討。 ②学校・保護者等間連絡デジタルツールを導入。長時間勤務者の延べ数は減少傾向（前年度比7月以降）にある。 	A	①今後も継続的に業務の効率化・改善について検討していく。 ②デジタルツールの積極利用により、教職員の負担軽減を図っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 学校評議委員会・評価懇話会の充実及び異校種間及び地域交流実施の工夫 保護者・地域への情報提供による信頼関係の構築 学校説明会コンテンツの充実 	①懇話会におけるワールドカフェ方式の導入と小学生とのスポーツ交流事業の実施 ②学校HP及び一斉配信メール等の活用による適切な情報提供 ③学校説明会を安全に実施し、本校の教育活動への理解を促進	①学校評議委員会・評価懇話会は活発に行われたか。交流事業は好評であったか ②生徒・保護者の本校の教育活動への理解・信頼度・満足度の上昇 ③説明会参加者及び入学希望者の増加	<ul style="list-style-type: none"> 目標を概ね達成できた。 ①学校評議委員会・評価懇話会は、第1回は紙面開催。第2回は2月上旬実施予定。スポーツ交流事業はコロナ禍により中止。 ②学校評価アンケート(保護者) 教員の生徒理解 73.8%(+15.7) 教育活動への満足 79.5%(+1) コロナ対応への適切性 86.1% ③1月31日現在の志願者数250名(倍率1.05) 	B	①コロナ下での異校種交流事業の在り方について具体策を検討。 ②運用を開始した学校・保護者等間連絡デジタルツールの積極的活用により、より一層の「開かれた学校づくり」を目指す。 ③地域の小・中学生に本校の教育活動を発信し、「魅力ある学校づくり」を進めていく。

学校関係者評価
実施日 令和4年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ICT機器による学習保障の実践（オンライン授業の実践等）は評価に値する。今後は双方向対話的授業の充実が望まれる。 教育の本質は対面にあり、オンラインと対面とのバランスが大切である。 コロナ時代の新たな業務への取組が、教職員と生徒の成長に繋がっていくとよい。 画面が見づらいなど改善点はあるが、自宅で遅れることなく授業を受けられたことはよかった。 コロナ下で行事や部活動を行ったことは、生徒の心情に即した対応である。 様々な制限があったが、数多くの行事ができてよかった。 文化祭作成のクラス動画は、保護者にも公開されるとよかった。 不登校や悩みを抱えた生徒の対応には、学校と家庭の連携が重要である。 生徒の様子はとても落ち着いてきており、先生方の努力の成果であると感じる。一方で交通マナーに課題がある。 コロナ下で自宅での待機が増えるが、不登校にならない工夫をお願いする。 PTA活動や地域連携行事の縮小は、時勢としてやむを得ない。今後は、多くの保護者が参加できるような工夫を期待する。 学校に関する地域課題は、地元自治会と協力し、行政に働きかけて行くとよい。